

憲法しんぶん 速報版

発行 憲法改悪阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2024年10月3日(木)
NO. 1517号

本号3頁

知事選と総選挙実施の兵庫憲法共同センターが声明発す

= 総選挙10/15公示~10/27投票 県知事選10/31告示~11/17投票 =

改憲許さず憲法生かし

平和・くらしの安心ささえる政治の実現へ

憲法改悪ストップ兵庫県共同センター代表 津川知久

県民のみなさん

この秋、日本と兵庫県の政治を大きく変える絶好の機会がやってきました。

自民党は、裏金問題や統一協会問題は沈黙、憲法改定には雄弁という総裁選の結果、党内きつての改憲・タカ派の石破茂氏を新総裁に選出しました。臨時国会は10月1日に招集され石破新内閣が発足します。新内閣は自らの施政方針の討論を避け、10月9日に衆院を解散し10月15日公示・27日投票をねらっています。

いっぽう9月19日、兵庫県議会は全会一致で齋藤知事不信任を決議、30日に知事は失職しました。これをうけ県選挙管理委員会は31日告示・11月17日投票の県知事選日程を発表しました。

「コメが出だしたと思ったら倍近い値段!」「青ネギ2~3本で300円」

物価高騰に対して何ら手を打たない自民党政治。それなのに軍事費には何千億円ものお金を湯水のように投入するのは平気。しかもそれが北東アジアでの緊張を高め戦争を誘発する危険を高める要因になっています。そのうえ石破氏は、日米同盟を強化して「アジア版NATO」をつくり、米軍核兵器を「共有」すべきだとまで述べています。そして憲法改定で9条の2項を削除し「国防軍」創設を明記することは年来の主張です。

国民生活には目もくれず裏金問題には目をつむり戦争する国づくりに邁進する、そんな自民党政治はもうごめんです。これとしっかり対決し「健康で文化的な生活」を実現し、「破滅につながる軍事力増強でなく平和につながる粘り強い外交こそ」を強く求めていきましょう。

県民生活にこころ寄せるおおさわ芳清さんといっしょに兵庫の政治を変えましょう

齋藤前知事による混乱を回復するとともに、歴代の自民党県政による大企業優先・県民福祉あとまわしの施策を転換すること、これがわたしたちの願いです。総務省統計によれば、一人あたり介護老人福祉施設の数や県の一人あたり教育費はいずれも全国41位で井戸県政時代とかわっていません。そのうえ6000億円の播磨臨海地域道路を計画し、高校を15校も削減しようとしてきました。

住民・患者の健康といのちを何よりも大事にし、あのコロナ感染に対しても院長として病院職員一同の気持ちを結び大奮闘してきた医師・おおさわ芳清さん。その誠実な人柄にいま熱い期待がひろがり始めています。

県民のみなさん

この10月から11月、わたしたちは自らの行動で日本と兵庫の政治をかえることができます。どういう選択をすれば人間らしく生きることのできる政治を実現できるのか、ぜひごいっしょに考えてみませんか。ここから訴えます。

2024年10月1日

石破総裁 米シンクタンクに寄稿

自らの手で安倍・岸田政権を超える同盟強化を進める考えを示す

しんぶん赤旗は、自民党の石破茂総裁は27日付で米保守系シンクタンク「ハドソン研究所」に寄稿し、次期政権における安全保障政策の骨格を示したと報じています。「日米同盟が基軸」であり「日米同盟を米英なみに引き上げることが私の使命だ」と表明。自らの手で安倍・岸田政権を超える同盟強化を進める考えを示しました。いっそう危険な段階に入りつつある自民党政権を一刻も早く終わらせることは急務です。

石破氏は、ウクライナがロシアに侵攻されたのは北大西洋条約機構（NATO）に入っていなかったからだとして、中国を抑止するために「アジア版NATO」の創設を主張。さらに、中国・ロシア・北朝鮮に対抗するために「アジア版NATO」で米軍の核兵器を「共有」すべきだと述べました。「核兵器のない世界」の流れに逆行するどころか、唯一の戦争被爆国・日本がアジア全域での核戦力強化を呼びかける異常事態です。

非核三原則の見直しの考えを示す

加えて、米軍の「核持ち込み」検討もあげ、国是である「非核三原則」見直しの考えも示しました。石破氏は、安倍政権による集団的自衛権の行使容認や、岸田政権による「安保3文書」での「反撃能力」（敵基地攻撃能力）の保有や軍事費2倍化をめぐり、「これらは閣議決定や個別法にすぎない」として、確実に実行するための「国家安全保障基本法」制定を表明しました。これに続き、自民党の悲願である憲法改定を行うと述べました。

石破氏は、2000年10月の米超党派報告書（アーミテージ・ナイ報告書）で、米英の「特別な関係」をモデルとして、日米の「対等なパートナー」を提案したことに言及。日本は「米国と肩を並べて、自由主義陣営を共同防衛できる状況となった」と述べ、米軍とともに海外で武力行使できる態勢が整ったとして日米安保条約の改定を訴えました。

さらに、日米地位協定の改定も主張。グアムへの自衛隊駐留を提案しました。また、「在日米軍の負担軽減」のため、米軍基地の日米共同基地化を提唱。沖縄をはじめ、国際的にも過重な米軍基地による住民の「負担軽減」には一切言及せず、米軍の「負担軽減」を優先する考えです。「対等な同盟」といいながら、対米従属そのものです。

首相に選出される前の解散言及は、憲法違反?!

国会の解散は、憲法の7条と69条に規定されています。7条では解散を内閣の助言と承認を受けた天皇の国事行為と定める。天皇は国政に関する権能を有せず、事実上首相が判断するため「首相の専権事項」とされています。

69条は、内閣不信任決議案が可決された時、首相は衆院を解散することができるとしています。

まだ「政党の党首」にすぎなかった石破氏が衆院の解散に言及したことは、おきてである憲法に違反するのではないのか」と、多くの国民が批判していることです。

報道によれば、神奈川大法学部の大川千寿教授（政治学）は石破氏の対応について、憲法違反の疑いがあるとしたうえで、「石破政権に事態の悪化をもたらしている」とし、こう説明します。

「石破氏は首相の解散権行使について、慎重であるべきだとの姿勢を見せていました。それなのに、党内の意見に押されて早々に選挙戦略として早期解散を表明したことで、ブレが露呈しました」。首相が代わったからといって「自民党政権の方針が大きく変わるわけではないし、評価すべき実績もまだない」と指摘。今回の衆院解散の表明について「党利党略が色濃く、日本の政治にとって妥当なのか問われるべき問題です」と話しています。

「総裁になった瞬間に“嘘つき政治家、に変貌”

兵庫県明石市の前市長で弁護士の泉房穂氏が30日、自身のXを更新。自民党新総裁に選出された石破茂氏が衆院選投票を10月27日に定め、想定外の早さで衆院解散する流れとなったと報じられたことを受け、「総裁になった瞬間に“嘘つき政治家、に変貌”などと厳しい言葉で痛烈に批判しました。

泉氏も出演した29日放送のフジテレビ系「Mr.サンデー」で「党内の解散を急ぐ流れに石破氏が応じている」との見方が紹介されました。総裁選では「与野党論戦が必要だ」と訴えていた石破氏について、司会の宮根誠司が「石破さんの意に反して10月27日に総選挙をやらざるを得なくなった」と伝え、泉氏も「完全に党内にやられちゃってますよね。こんな急に解散というのは、これまで言ってきたことを、手のひら返しですからね」とコメントしていた。

泉氏は自身のコメントも含めた同番組のやりとりを報じたネットニュースを添付し、「一定の期待をしていただけない残念でならない。政策論争をして争点を明確化してから有権者の判断を仰ぐと訴えていたにもかかわらず、いきなりの“手のひら返し、とは情けない。総裁になった瞬間に“嘘つき政治家”に変貌するとは、結局は“政治屋、だったということなんだろうか…”と見解をつづりました。

泉氏の投稿に対し、フォロワーからは「自民党ですからね」「こうなることは百も承知」「総裁なんて看板でしかない」「だから結局誰がなっても一緒って言われるんやと思いますよ」「党内基盤が弱い内閣の宿命です」といった声が続きました。

早く総選挙やっても…自民が大幅議席減で単独過半数割れ 文春

《新首相でも自民が単独過半数割れ》「完全予測」 自民・大幅議席減の衝撃展開に！

石破茂氏（67）が激戦を制した自民党総裁選。その石破氏がテレビ番組で「新政権なのだから、なるべく早期に信を問うのも当然だ」として示唆してきたのが、早期の衆院解散です。

では、いま解散総選挙があれば、どのような結果になるのか。「週刊文春」は政治広報システム研究所代表の久保田正志氏と、全 289 選挙区の当落を完全予測しました。

「国民人気が高いとされる石破氏であっても、一連の旧統一教会問題や裏金問題に端を発する国民の“自民離れ”は止められません。都市部とされる各都道府県の 1 区や、2012 年初当選組の“魔の 4 回生”たちが軒並み劣勢です。予測では、自民党の議席数は単独過半数に届かない結果となりました」

その他、総裁選で小泉進次郎氏の陣営のキーパーソンとなった議員が劣勢。さらに、立憲民主党では都知事選で惨敗したあの女性政治家が、野田佳彦新代表の党運営の浮沈を左右する。池田大作創価学会名誉会長の死去をうけた“弔い合戦”である公明党も議席を減らし、日本維新の会は居直りへの批判が止まらない県知事の“製造責任”を問われ、兵庫で苦戦という結果に……。

全 289 選挙区の完全予測と久保田氏の解説は、「週刊文春電子版」で配信中です。

お詫び

2024 年拡大常任幹事会と秋の憲法憲法講座の延期について

連日のご奮闘に心より敬意を表します。

新首相に選出された石破氏は、総裁選では解散・総選挙について「予算委員会・党首会談を開催し、しっかり議論し、国民に判断の材料を提供した上で実施したい」と述べていました。ところが国会会日の前日に「10 月 27 日総選挙を実施する」とそれまでの発言をあっさりと覆しました。そして、国会会日の 10 月 1 日に、野党と国民の厳しい批判の中、そのように実施することとなりました。

そのようなもとで、憲法会議として、前日 26 日に開催予定していましたが 2024 年拡大常任幹事会と秋の憲法憲法講座を延期し、憲法改憲を阻止するうえで極めて重要な総選挙を全力でたたかいていくことを呼びかけよう決めました。

そのため、憲法講座の講師の永山茂樹氏らと調整し、会場を何とか確保し、2024 年拡大常任幹事会と秋の憲法憲法講座を次のように開催することしました。

皆様のご理解とご協力をお願いします。

- ◆開催日 11 月 24 日(日) 秋の憲法講座 9 時半から 12 時
- ◆会場 全国教育文化会館
- ◆日程 ①9 時半から 12 時 秋の憲法講座 会場 7 階ホール
 - ◆内容は当初の内容で実施します。
 - 講演 永山茂樹氏 沖縄からの報告 城間陽介氏
 - ◆会場の借用時間が 12 時までのため、30 分早めます。
- ②昼食・休憩
- ③13 時から 16 時 2024 年拡大常任幹事会 会場・オンライン併用で実施
会場 地下会議室 AB

2024 年 10 月 2 日 憲法会議